

令和7年1月20日開催
令和6年度第2回習志野市災害医療対策会議
資料2-3

令和6年度習志野市災害医療対策本部及び応急救護所訓練 反省結果

医療本部

【到達目標1】災害医療本部の設営手順等が役割に関係なく設営できる				
	できた	できなかった	どちらでもない	備考
①災害備品の保管場所を確認できた	○			
②配置図をみながら設営できた	○			
③物品について				
確認し不足していたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・無線聞き取り用紙は多数必要 ・ヘルメット 			
使用できないもの				
あったらよいもの	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な情報の色分けのため色ペンマーカー（赤・青・緑） ・マグネット 多 ・モニター接続ケーブル ※無線記録時時間確認のため置時計…医療本部事務ボックス内に1個あり			
④今回の訓練で配置図の変更した点				
今回、GF会議室Cはマイナンバーで使用のため、会議室ABを使用。 <ul style="list-style-type: none"> ・無線グループと指揮グループは一定の距離があったため、無線時、まわりの音とぶつかることもなく、スムーズだった。（距離が近すぎると無線の音声が聞き取りづらくなる） ・無線グループと指揮グループを往復するメッセージャー（情報管理調整者）も負担はない。 ・重症傷病者の搬送先の決定するため、EMISを大きな画面で確認したい。→GF会議室であれば大モニターへ接続可能 				
【到達目標3】災害医療本部・病院はEMIS（広域災害・救急医療情報システム）の合同練習モードを使用し、実災害と同様の入力訓練を行い、迅速にEMIS入力・情報確認ができる。				
	できた	できなかった	どちらでもない	備考
①EMISの入力ができた（代行入力）	○			健康支援課職員1名のみ実施
②EMISを用いて医療機関の被災状況を確認することができた	○			
③EMISの活用方法を理解することができた	○			

【到達目標4】災害医療本部・病院、応急救護所との情報伝達により、重傷者の搬送に至るまでの流れを確認する				
	できた	できなかった	どちらでもない	備考
①（無線）音声での通信ができた	○			・無線の音声待ちは少なく、流れはスムーズだった。
②（無線）無線担当者と記録担当者の連携がスムーズにいった	○			
③（無線）画像伝送ができた	○			
④（無線）印刷ができた	○			
⑤応急救護所の報告を確認出来た	○			
⑥随時災害対策本部へ必要な情報を報告できた	○			
⑦医療本部に入ってくる情報の流れを確認できた			○	
⑧重傷者の搬送に至るまでの流れを確認出来た			○	
⑨指揮をとる各代表者らが必要な情報を得て、要請内容に対する指示を出すことができる。			○	
【到達目標5】災害医療本部は病院・応急救護所からの情報を整理し、関係機関等への連絡・調整を行う。				
	できた	できなかった	どちらでもない	備考
①ホワイトボード等に必要な情報を記載し整理できた			○	
②適宜、情報の確認を行い、要請の回答もれがないか確認できた。			○	
③医薬品の供給の流れ・手続きを理解できた	○			
【その他】役割				
	できた	できなかった	どちらでもない	備考
各自の役割を実施できた	○			

【情報の整理について】

- ・各会場から医療本部への要請と進捗状況の整理のため、記載項目の横幅を広げ、「依頼」と「解消」の項目があると確認しやすい。
- ・経時的な記録の整理のため、重要な内容については色分けすることも検討。

【EMISについて】

- ・ EMIS内容は随時更新される。必要情報は現時点の各病院の被災情報であるため、経時的な情報として残していくのは、入力・更新時間、要請内容とする。
- ・ 代行入力の役割分担を明確にした方がよい。
 - パソコンを2台を準備したが、開始時事務局側のパソコンが立ち上がらず、指揮グループのパソコンで職員が代行入力を実施。
 - 原則事務局で代行入力をする
- ・ 病院は入力したと報告されたが、1時間前の情報等、EMISの情報の最新がわかりにくかった。

【無線について】

- ・ 画像伝送はスムーズだった
- ・ 音声無線は3名で確認できたので聞き逃しがなかった。
- ・ 無線聞き取り2名が聞き逃さぬようそれぞれ記入、そのメモを渡しているため、重複したメモをメッセージに渡す形となった。聞き逃さないよう書かざるを得ないため、無線グループでそのメモを精査するのは難しい。
- ・ 医療本部から応急救護所より搬送指示を出した後、再度応急救護所より搬送方法について要請が生じた。無線のやりとりを最小限とするため、指示内容（搬送先と搬送手段等）をまとめて伝達できるとよい。
- ・ 医療本部は応急救護所3か所と病院4か所の情報が入ってくるためオーバーフローである。今回の無線の中で、応急救護所の定時報告と傷病者搬送依頼がぶつかる場面があった。無線で伝える内容の優先順位をつける・絞る等検討が必要である。
 - …無線の回線を増やすのはいかがか。→より混乱が生じる
 - …文字通信を使う方法も可能である

【情報の流れについて】

- ・ 各会場から要請を受け指示を出したが、無線伝達まで完了したのかまで、最初は解らなかった。
- ・ 昨年度の反省を踏まえ、今回の訓練では、情報管理調整者が医療本部内での情報整理と共有を図るためまずはホワイトボードへの記載を指示し、その後要対応事案については指揮グループに指示を仰ぐという流れの予定であったが、実際は指揮グループに報告の後記録となってしまった。今後はいかがするか。
 - ・概ね指揮グループへ報告の時にホワイトボード係もききとって記入できた。
 - ・ ホワイトボード係は3名程度必要。
- ・ ホワイトボードの医療機関名を無線時の呼び名と同様に「津田中」「習一」へしてほしい
- ・ 病院へ薬が不足することをこれまで想定になかった。
 - 市から県災害医療本部へ要請し、県より直接薬が供給される。
- ・ 事務局市職員に市対策本部依頼等をお願いしたい時に、別案件の対応している等市職員の人員不足を感じた。

【その他】

- ・ 災害時の応急救護所等からの重傷者搬送時救急車は対応可能か、市民搬送依頼の対応は平時と同様なのか災害時対応があるのか等消防に確認することが必要。
- ・ 無線通信に頼っている現状があるため、他の通信手段（電話等）の検討が必要。
- ・ 各会場より人員要請の依頼がミッションであったが、現実的に市災害対策本部から人員を出すことは困難だと想定される。今後市災害対策本部と医療本部の協議が必要である。